

5/25 ファンダ メンタルズ分析2

*Lecture for
fundamentals*



PSR見て割高な
状態とはなんや？

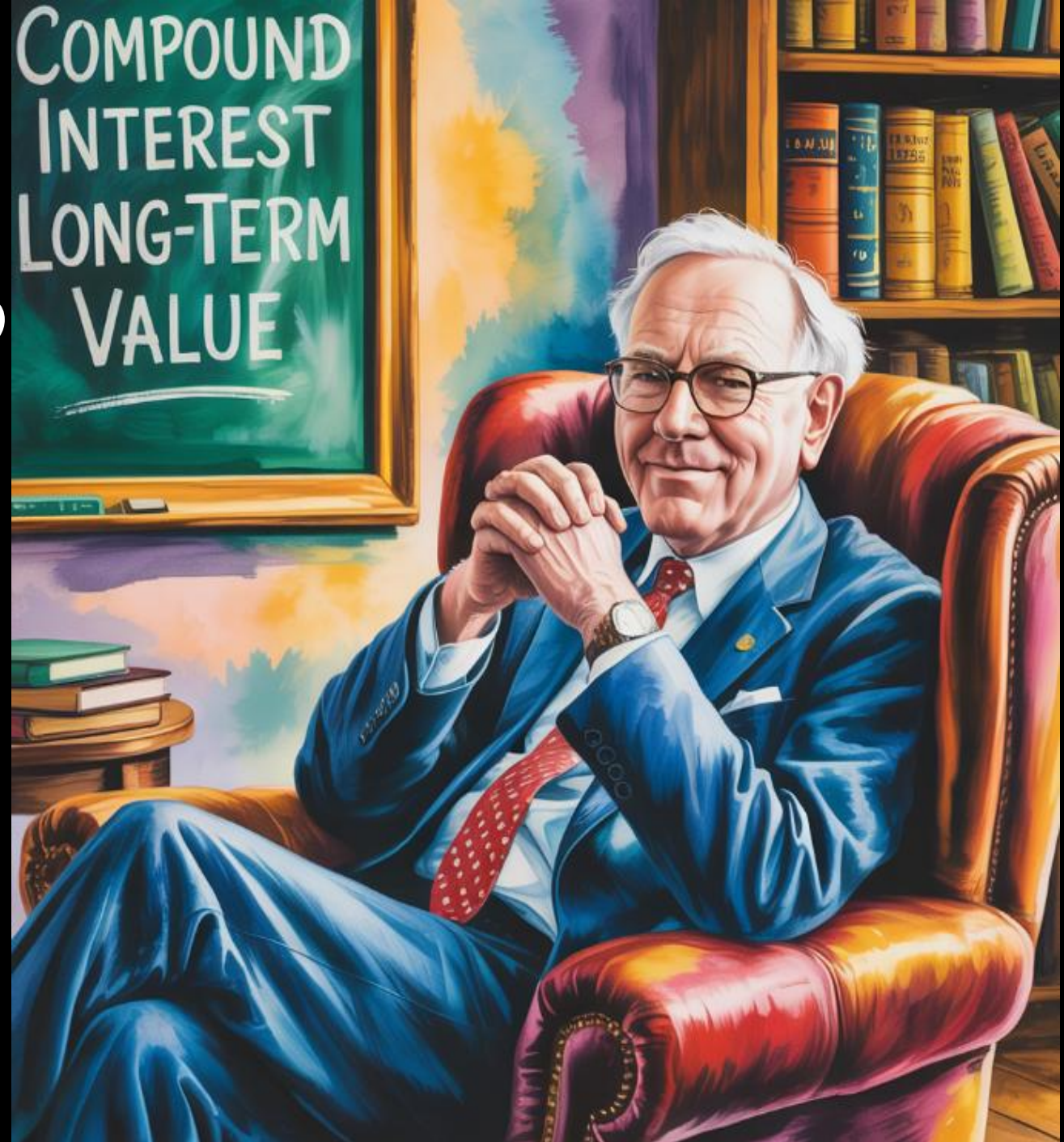
ティコくん解説してくれ

うい

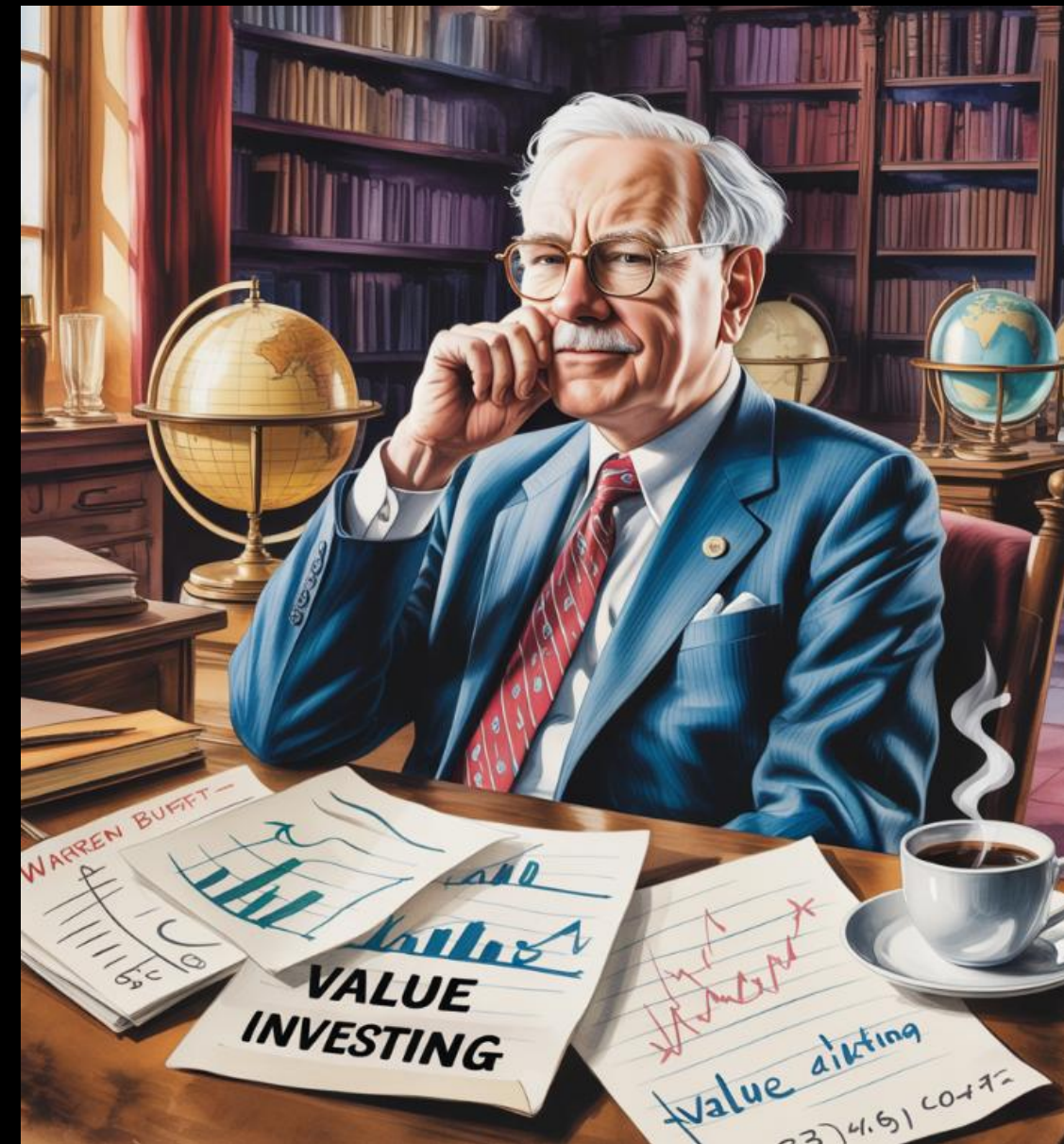


PSRってなに？

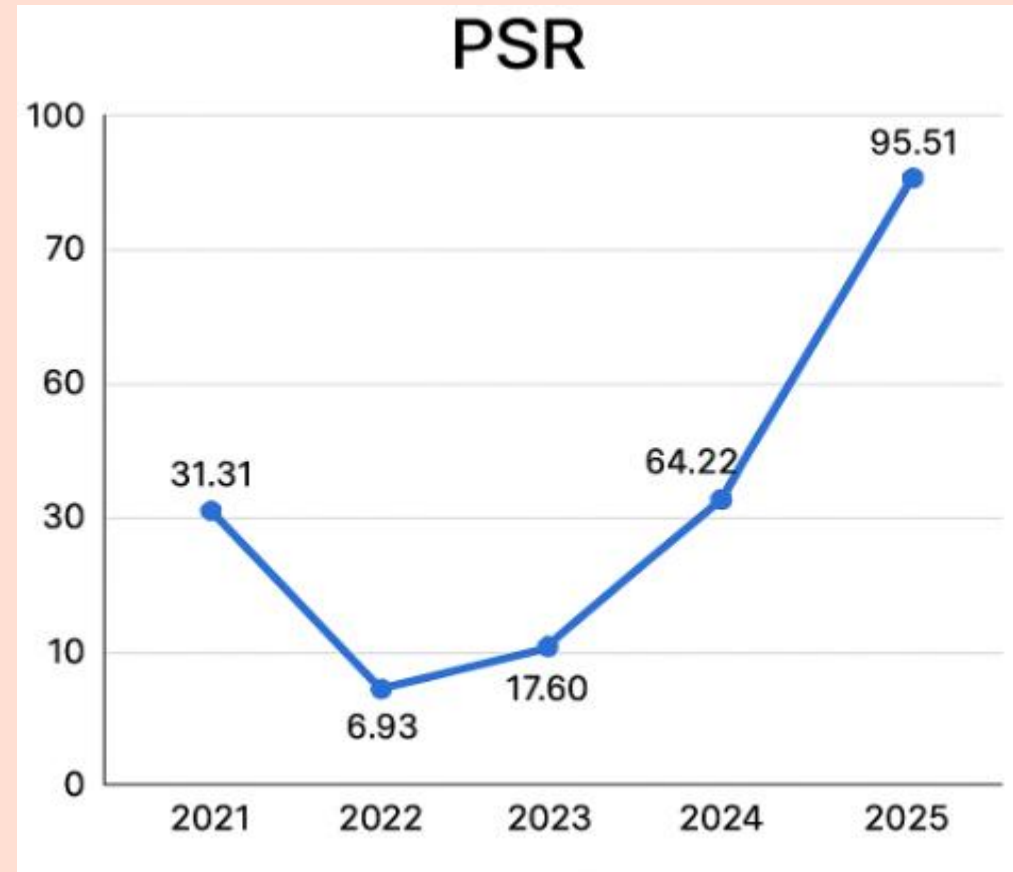
グロース株を見る上で
軸になる指標ですね



PSRが示すのはグロース株に対する期待度



●先週ご紹介したPalantir社を例に出してPSRの推移をグラフ化しました。一般的に20を超えると割高、30を超えるとバブルになっていると言われます。



PSRは売上高成長と株価の対比ができます



PSRってなんや？
パシリの略か？

●いえ、大統領、Price to Sales Ratioです。むしろその
ジャイアンの発想がすごいですね。

●時価総額÷売上高で計算します。
つまり、PSRが仮に10だとすると、売上の10倍の時価総額という
意味です。
仮に昨年10だった会社が今年20になれば、それは「売上成長のス
ピードより株価成長スピードが早い」という事を示します。

●Palantirの場合は“将来爆発的な成長を見せる”という事が織
り込まれ、PSRが100近い値になっていると思われます。

PERとPSRはどっち見るの？



ティコ君、先週はPER
て言うてなかったか？

●しっかり説明させてください。

PERは最終利益を出している企業なら算出できますが、比較的新しい企業でまだ赤字な企業の場合、算出できないので、売上成長を見ながら株価の「過熱感」を算出する事ができます。

Palantirのように一昨年黒字化したばかりの企業もPERは割高性を算出するのに適しておらず、PSRが指標に有効です。

ナスダック100銘柄のPSRはどんな感じ？

	銘柄例	PSR	時価総額	気づいた点
大型グロース	Apple	7.28	291T	このレベルの会社で10を超えるのは成長期待が未だ強い証。通常はこのレベルに来ると安定企業になるが、高いPSRはむしろ好印象にも映る。
	Microsoft	12.39	335T	
	Nvidia	24.54	320T	
中型グロース	Palantir	95.51	291B	中型は最も成長期待の強い銘柄が並ぶ為、PSRがかなり高く出る傾向。あまりに高い数値は成長ストーリーへの織り込みが強く、ストーリーが崩れた時の株価の崩壊には常に注意したい。
	ARM	33.55	134B	
	Crowdstrike	28.7	113B	
	Microstrategy	220	101B	
小型グロース	Datadog	13.95	39.5B	小型は市場からまだ注目されていないor全体の煽りをくらって下落しているなどの理由で株価自体が低く推移しており、PSRが低く出がち。成長ストーリーに火が付けば一気に中型に仲間入りする。
	MongoDB	7.57	15.2B	
	On semiconductor	2.59	17.3B	

中型が高い
傾向なんや



因みにCrowdstrike、Microstrategyは赤字企業。

PSRのまとめ



●成長期待を表す数値。大型ほど値は小さく出がち。これは年収に例えると分かりやすい。年収1000万円の人が2000万にするのは至難の業だが、300万円の人が600万円にするのは割とあり得る話。従い、大型でPSRが高いのは野心の強いエリサラのような物。

●また、中型株では大きな値が出がちであり、これは今後5年以上の強い成長ストーリーが織り込まれている。頼もしい反面、競争激化、関税で売上が激減、などのストーリーチェンジには注意。

●小型は割安放置されている銘柄も散見される。新入社員のごとく、今後グイグイ行ける人なのかまだ見極め中のフェーズで、PSRは低い場合も多い。

ここからは市場解説



来週もファンダ解説やってな

お望みとあらば

実はEUの方が中国より嫌い？



●実は昔からEUにはかなり批判的なトランプ大統領。これまで「(5月)EUは中国よりやっかい」「(2月)EUは米国に対抗するために形成された」など割と敵対的な発言が多かったのです。

●今回の50%関税もわずか1週間後の6/1から即時適用という強権ぶりで、脅しともとれる振る舞いになっています。

●今回のお怒りの理由は、「米国との貿易不均衡」「中国への制裁が不十分」という背景で、中国に対しEUは高関税をかけろ、と脅している訳です。

●先週金曜の市場は下落を半分程度戻し、「はいはい、プロレスごっこで、また緩和するんだよな」という雰囲気が出ていますが、案外、EUとのケンカは重くなる可能性もあります。

世界景気の悪化を海運から知る



日本郵船など海運大手三社の25年度の売上は減少傾向ですか？

はい、**2025年度**の海運大手三社（日本郵船、商船三井、川崎汽船）の売上は減少傾向にあると予想されています。特に、日本郵船の決算説明資料によると、コンテナ船運賃市況の高騰が一服し、2025年度の経常利益は**2,550億円**と、前年の**4,908億円**から減少する見込みです ¹。

また、商船三井や川崎汽船も、海運市況の変動や燃料価格の下落の影響を受け、売上が減少する可能性が指摘されています ²。ただし、長期的には安定収益の積み上げや新規事業の拡大によって、2030年度には再び成長が見込まれています ¹。

●海運業界は航空業界と同じで、予約がパンパンだと高収益で、予約が半分以下だと一気に収益悪化するというような世界です。この業界は、景気悪化→貿易需要減→海運収益悪化という具合に、景気悪化を数字で早めに知れる業界でもあり、先行指標になり得ます。2030年まで再成長が期待できない点も気になる点ですね。

パウエル議長「予防的利下げは考えていない」



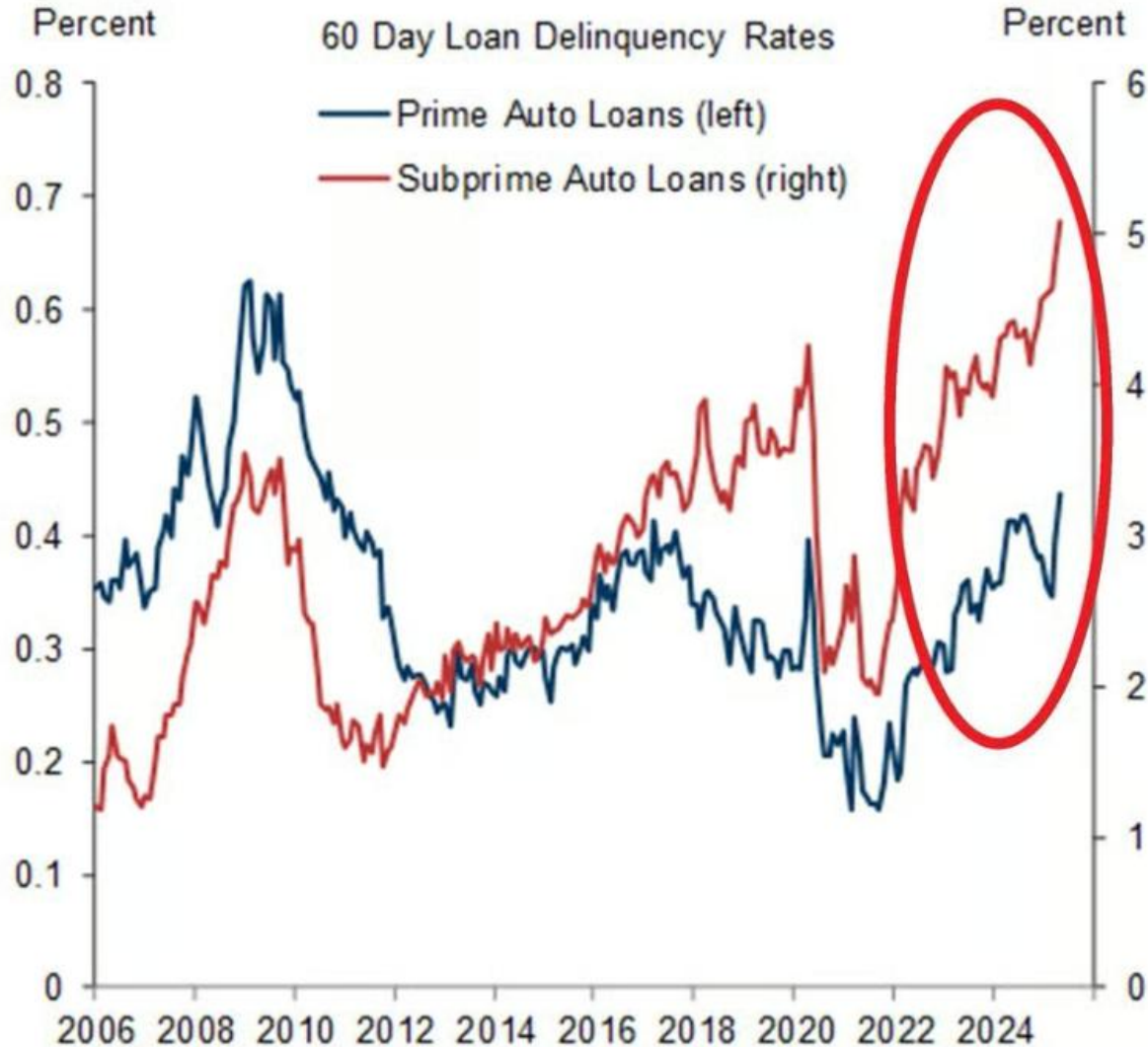
利下げ遅いとか
言うなや

●今後、皆が待ち望む株価上昇の為には利下げがカギですが、FRBメンバーのほぼ全員が利下げを意識しておらず、関税政策の影響度合いが見えないため、「当面は動かず観察」の姿勢であり、“間違ってもインフレ再燃するのに拙速に利下げする”ような事態は避けたいという思いが透けて見えます。

●関税によるインフレ上昇懸念もそうですが、失業率も低位で推移しており、欧州が行っているような景気悪化の予防的な利下げは「今は違う」という姿勢が強く、当面は経済にとって引き締め的な高金利が維持されてしまいそうです。

自動車ローンの滞納者が過去最高値

引用元 : <https://globalmarketsinvestor.beehiiv.com/p/us-auto-loan-delinquencies-are-rising>



source: Goldman Sachs




●赤線がサブプライム層(信用力の低い借り手)、青線がプライム層(信用力の高い借り手)の60日以上支払い滞納率。サブプライム層ではリーマンショックの不況時を超える5%を記録。プライム層でもコロナショック時並みの滞納率。

●しかも恐ろしい事に、過去この率が下がり始めたのは利下げをきっかけにしているが、現在は利下げがまだ遠く、今後も率が上昇しそうと考えられる。金利が高いがゆえに、ローン滞納は破産者を多く出しそうでもある。

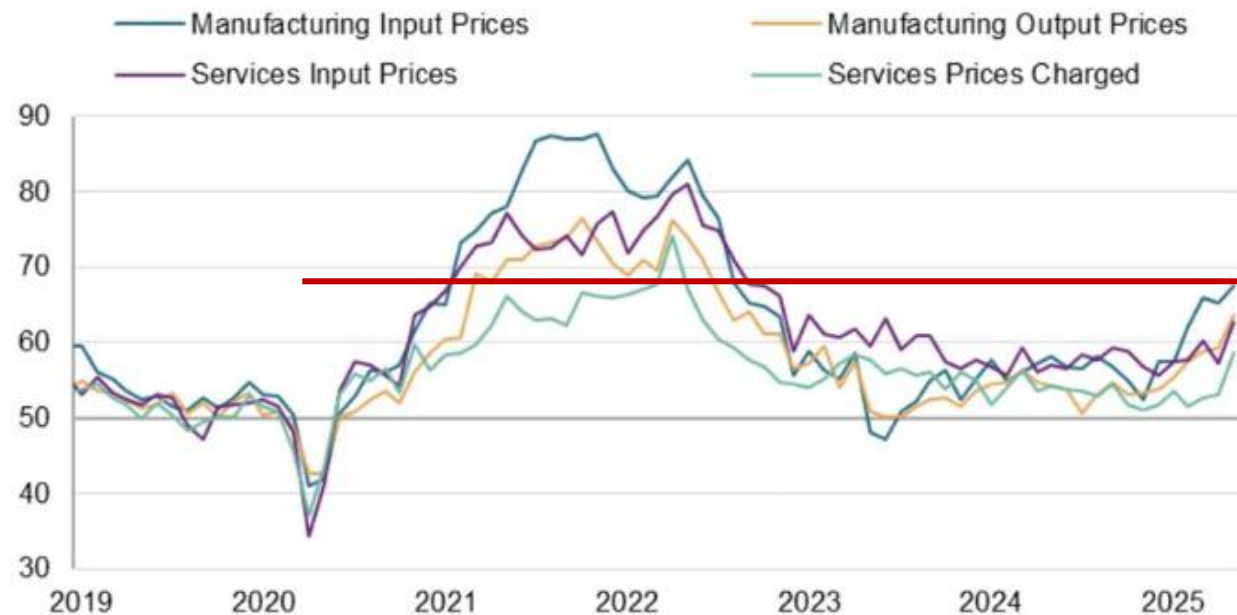
PMIについて

 **LuxAlgo**  @LuxAlgo · 5月22日

JUST IN: 🇺🇸 Flash PMI shows economic strength... and accelerating inflation.

- ▶ S&P Manufacturing PMI 52.3 vs 49.9 Est 
- ▶ S&P Services PMI 52.3 vs 51 Est 
- ▶ S&P Composite PMI 52.1 vs 50.3 Est 

S&P Global Flash US PMI price indices



Data compiled May 22, 2025. Index, sa, >50 = inflation since previous month

Source: S&P Global PMI.

© 2025 S&P Global.

●先週発表されたPMIの指数。製造業、サービス業各々全てが原価と販売額が上昇している、つまりインフレしている事が分かった。

●特に製造業の原価(つまり原料費)が最も上下動が激しく、これを見るに、コロナ禍中の21年初頭のレベルまで原料費の高騰のスピードが上がってきている。

●製造業、サービス業ともに拡大してるのは望ましい結果だが、インフレも注意を払いたいところ。

本日のまとめ

- PSRはグロース株の指標になるデータの一つ。特に赤字企業でこれからに期待という企業の成長度合を測るのに適している。高すぎる場合、よくよく精査したい。
- EUと米国の関税交渉は意外と悪化する可能性もある。
- FRBは利下げに消極的で、今後インフレ低下、失業率上昇がみられるまでは静観か。
- 米国のローン対応は悪化の一途。
- PMIを見るに、21年と同じペースでインフレ悪化中。

今週のイベント

月曜:休場 深夜にパウエル発言
火曜:カシュカリ発言、消費者信頼感指数
水曜:ウォラー、カシュカリ、ウィリアムズ発言
木曜:GDP
金曜:PCE、ミシガン

今週の材料は消費者信頼感、PCE、ミシガン
辺りが景気、インフレに対する状況が読み取
れそうです。



注意事項

- このレポートでは主にニュース、経済指標などの分析を行い、株式、為替などのアセットに対し、私なりの見解と解説を行い、易しく説明を行うものです。
- ここで解説することには、できる限り精査を行いますが、個人の分析の限界があり、その正確性までは担保致しかねます。
- また、投資は自己責任なので、特定の銘柄を推奨する意図はなく、各々の責任の下、行っていただけるようにお願いします。
- また、レポートに出てくる画像、アニメ画は全て A I による架空の挿絵ですので実際の人物、団体には関係がありません。